

附属が大切にしてきた「協働」と「対話」

教頭

11月22日に、義務教育学校になって2回目の研究集会が開催されました。当日は県外の附属や公立の先生方に加え、教育委員会の方、さらにJICAの教育機関の方や福井大学の先生方と、様々な分野で活躍されている方々にお越しいただきました。そして、義務教育の9年間で、皆さんがどのように学んで、どのような力を獲得しているのかについて、授業やポスターセッションの様子を通してそれぞれのお立場からご意見をいただくことができました。

本校は50年以上前の開校時から授業研究校として、そして20年以上前から、協働や対話（コミュニケーション）を大切にした研究に取り組んでいます。皆さんに身につけてほしい力は、協働や対話を通して獲得していくものであると、教師が代々入れ替わっても、ずっとこの学校で大切に考えられてきました。

少し前のことですが、福井農林高生と科学技術高生の連携のニュースが報道されました。農林高校の生徒が栽培した高糖度トマトが、科学技術高校の協力で「の〜りんのあま姫」の名で商品化されたそうです。

農林高の3年生がトマトの品種「フルティカ」を、与える水の量を減らす栽培方法で生産し、甘みが凝縮したミニトマトを育てました。このトマトを校内で販売していたのですが、トマトを売る上でPRも必要と考え、科学技術高校とコラボして、パッケージ作りに挑戦しました。名前やラベルのデザインの話し合いを重ね、科学技術高校デザイン科3年生の案が採用されました。

このニュースを聞いて私は、これぞまさしく学校という枠の垣根を越えた協働であると思いました。別々の学校でそれぞれの違う専門の学びを経験してきた高校生が、得意とする自分の分野の力を発揮して、一つの大きなプロジェクトを達成していく姿は、まさしくこれからの社会で求められる姿です。先のわからない将来、良いものや必要とされるものを創るには、分野の違う人たちと力やアイデアを出し合うことが必要で、このプロセスこそ、この附属で大切に取り組んでいる「協働」という学びであると言えます。

7, 8年生はこの後も授業を中心に、自分の力を伸ばしてください。9年生はあと少しで卒業を迎えます。附属で身につけてきた学びを、卒業後もさらに磨きをかけ、将来の福井や日本、さらには世界を支える力として発揮してほしいと願います。

新メンバー 決まりました

生徒委員



A組：

B組：

C組：

生徒委員，生活委員は毎週1回昼休みに集まり，学校生活について意見交換しています。各クラスで問題，課題となっていることは何かを振り返り，クラス全員で意見交換をしてよりよい学校生活となるよう学年全体で取り組んでいきます。



学P実行委員



後列：

前列：



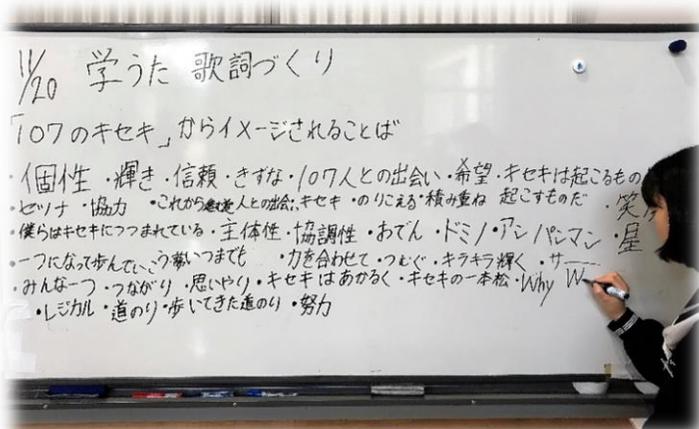
前期の活動を引き継いで、新しく発足しました。秋休み中に各自が取り組んだ「幸せリサーチ」をまとめる活動から始まっています。



学うた実行委員

後列：

前列：



「学年の歌」を制作します。「107のキセキ」をテーマに、私たちだけの1曲を作ります。まずは、歌詞づくりから始めています。

前期学 P 実行委員 活動をふりかえって

7-A

学 P テーマ決めをした時が一番印象に残っています。たくさん話し合いをして、幸福とグローバルに絞られた後が大変でした。そして、話し合いを続けていくうち、一つ意見が出ました。「Happy World in the future がいいんじゃない？」この意見が出た瞬間、「それいい！」と 7 年生全体の気持ちが初めてそろった瞬間でうれしく思いました。僕は、後期学 P 実行委員になりませんでした。なぜなら、フォロワー側の立場から物事について考える「わくわく」があるし、それが一番の貢献になると思うので頑張りたいです。

7-A

私は、前期学 P 実行委員になって全体をまとめることの難しさ、計画を立てることの大切さを感じました。計画は実行委員内で協力し合って立てていたのによいと思いました。でも、積極的になれないところがあったり、皆への指示が通っていなかったりしたところがあったので、そこをもっとよくしていけたらいいなと思いました。今回、学 P 実行委員で学んだことはたくさんあります。それらをこれからの経験につなげていけたらいいなと思います。

7-A

僕は今回初めてみんなの前に立って、全体をまとめる実行委員になり、はじめは全くまとめることができず、これから実行委員をしっかりとしていけるのか、とても不安になりました。しかし、みんながしっかりとサポートをしてくれて、自分の不安だったことをカバーしてくれました。初めて司会をしたとき、エジプトからお客様が来てとても緊張しました。みんなの考えている意見が出やすいように司会としてみんなをサポートすることができました。今回は学 P 実行委員だったけれど、次は、もっといろんな実行委員になって今以上に頑張りたいです。

7-A

私は一生懸命やる楽しさを知ってもらうことを目標にやってきました。けれど現実は厳しく、楽しくないとやらないという現状が見えてきました。では、楽しいということはどういうことでしょうか。逆に、自分自身が楽しくない時はどういう時かというのを考えてみました。私が思うのは、明確な目標がない時、誰かにやらされて行動している時だと思います。学 P でいうと、何をすればよいかわからない時、実行委員がやれといったからやっている時と同じことだと思います。前期で見えてきたこのようなことを、後期の学 P に生かし、より楽しい学 P をつくっていきたいです。

7-B

僕は二回続けて実行委員になりました。二回目は一回目と比べて簡単かと思っていたけれど、簡単にはいきませんでした。特に、実行委員だけで集まってこれからの方針を決めるときが大変でした。どうしたらみんなが楽しく学Pに取り組んでいけるかを特に考えたけれど、よい進め方が見つかりませんでした。けれど、そんなときに一回目の経験を生かすことができたので、なんとか乗り切れました。今回は、特に経験の大切さに気づくことができました。



これからは経験を大切に、自分の仕事や役目を達成していきたいです。

7-B

僕は、宿泊学習の実行委員からの引き続きではなく、学P実行委員から、学Pを進める立場になりました。最初、学P実行委員は、面倒な仕事がたくさんあるのだろうな、と思っていましたが、実際には、とても楽しい仕事でした。たしかに、みんなをまとめて、話を進めることは大変ですが、話し合いがまとまると、とても達成感があります。特に学Pのテーマが決まったときは、ものすごく達成感がありました。新しく、学P実行委員になった人たちには、この「達成感」を元気や、やる気の源にして頑張ってもらいたいと思います。

7-B

私が前期学P実行委員を務めて学んだことは「実行委員が一丸となることの大切さ」です。みんなは実行委員の鏡で、私たちが努力すれば自然とついてきてくれる。逆もまたしかり。実際その通りで、実行委員がバラバラだった後半はみんなの意見がまとまらず、学Pが停滞していました。みんなの温度差をなくす。そして、みんなで同じ場所を目指す。難しいことだとは思いますが、今回の経験を生かし、同じ失敗を繰り返さないようにしたいです。最後に、先生方、7年生のみなさん。半年間本当にありがとうございました。

7-B

私は今回、宿泊学習実行委員に続いて、学P実行委員を務めることになりました。放課後も集まって、部活にいけないときが多くて、かなり大変でした。けれど、方向性が決まり、進んだと感じる時は達成感がありました。文化祭の時の学P発表も「フゾえさん」でこれまでの7年学Pの流れについて、笑ってもらいながら発表することができて、成長できたと思います。後期は実行委員ではないけれど、フロアメンバーとして意見をどんどん発表していきたいと思います。

7-C

私が前期の学 P 実行委員で一番頑張ったことは、みんなの意見を聞いてまわったことだと思います。また、反省点は、実行委員の時、人に言われてから動いていたことです。自分から動くことの大切さを学びました。私はこれからみんなが楽しめる・自主的に取り組める学 P を作っていきたいです。学 P は、嫌いな人と、好きな人とに分かれるので、みんなが学 P を好きになってもらえるようにしたいです。私は、後期実行委員でも頑張りたいし、反省点を生かしていきたいです。

7-C

107 人のリーダーとして、頭も心も成長できたと思います。学 P で得た進行の仕方や、前に出てまとめていく精神のあり方は、これからの学校生活に役立つと思います。107 人で歩んできた学 P の学びは、躓く時があっても、積極的に意見を出し、創造していきました。とても、価値ある学びを 107 人で創り上げていきました。そんな 7 学年のちょっとしたリーダーとして活動できた事が光栄です。これからも 107 人の 1 人として学 P に貢献していきたいです。今までありがとうございました。

7-C

僕は、「今その話をしても効率悪くない?」「その話って前にもしてない?」など議題への答えではなく、議題の答えを出すための進め方を変えたいと思ったので、学 P 実行委員になりました。しかし、学 P 実行委員の意見を聞いて、「あくまで僕たちは、学 P 実行委員であって、議題がそれなら自分たちでなおせるような学年にしたい」という風に思ってきました。結局、議題の答えを出すための進め方は、あまり変わらないままだったけれど、学 P 実行委員をしたことにより、いろいろな人の思いがわかりました。このいろいろな人からもらった広い視野を社会にも生かそうと思いました。

7-C

僕は前期学 P 実行委員をして、裏方の仕事の大切さを学ぶことができ、自分が立候補した時に言った、「楽しさ」をしっかりと出せたと思います。僕は後期も続けてやるので、みんなが輝けるように、裏方の仕事でも何でもやって、頑張ります。僕が一番心に残っている学 P は、課題の順番を決める時です。その理由は欠々に実行委員が意見を言える時間だったからです。しかも、みんなの考えもわかったし、とってもよかったです。本当にありがとうございました。そして、後期もよろしくお願いします。



附族アルバム 11月

学級会 (11/8)



A組

B組



C組

日頃感じていることを積極的に発言し、仲間の考えに共感したり、よりよいクラスのために何ができるのかを考えたりする時間になりました。

研究集会生徒発表



前日までに前期課程、後期課程お互いの発表を見合い、アドバイスをしました。



当日はたくさんの参観者の中、これまでの活動とその省察を発表しました。

教育講演会 (11/26) 「夢への挑戦」

パラ陸上選手HKさんをお迎えして、挑戦し続けることの尊さを学びました。

また、競技用車椅子に実際に乗って体験しました。



車椅子での生活だからこそ見える世界や、気づき、仲間の心遣いについて知ることができました。7年生からも積極的な質問がありました。

生徒総会（11/28）



後期生徒会スローガン「SCRUM」に沿って各委員会からの活動方針について積極的な質疑応答がなされました。7年生も、普段の学校生活で感じていることや疑問などを発言しました。



シンガポールテマセックハイスクール交流会（11/20）



夏の交流会に引き続き、一日学校生活を一緒に送りました。お別れ会では日本文化の体験（けん玉、お点前、福笑い）でおもてなしをしました。

